

民主化闘争情報

No. 812
2011年2月10日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR北労組は、2月3日、自動車支部で北鉄労から2名の組織拡大を果たした。自動車支部として昨年9月の拡大に続く成果となる。

JR北労組に北鉄労から2名の仲間が加入！ —日常的な世話役活動が成果として結実！—

今回、北鉄労を脱退し、JR北労組に加入したのは、31歳と36歳の仲間だ。自動車支部役員、組合員による日常的な世話役活動の賜である。自動車支部は、「職場で働く仲間どうしの付き合いで社員間の親睦を図ることは、業務をしっかりと行い安全を確保するうえでも大切なこと」を合い言葉に、北鉄労組合員に対して加入の呼びかけを行っている。

JR北労組は、「北鉄労の皆さん！仕事や私生活の相談は誰にしていますか？JR北海道の民主化、働きやすく楽しい職場づくりを、JR北労組に加入して共に取り組みましょう！」と訴えている。

国会ではJR総連革マル浸透問題が再三にわたり追及！

2月1日の衆議院予算委員会における柴山昌彦議員(自民党)の質問に続き、2月8日の同委員会で、今度は同党の棚橋泰文議員がJR総連からの献金問題を取り上げた。質疑内容は次のとおりである。

(棚橋議員) マニフェストについて質問する。五つ特に主要な約束がある。「企業団体献金を禁止する」、禁止したのか。

(菅総理) 企業団体献金を禁止するという基本的な考え方は変わっていない。具体的にその方向で、我が党としては法案を出す準備をしている。

(棚橋議員) あなたは、2009年の総選挙の際、JR総連から小沢さんと同額の献金を受け取っているか。

(菅総理) 突然聞かれても、この場でお答えする資料を持ち合わせていない。

(棚橋議員) 私の調査では、あなたは小沢さんと同金額のJR総連からの団体献金を受け取っている。JR総連は、枝野官房長官が、革マル派との関係での献金に関して、この委員会で何度も聞かれている。菅さん、あの時ここにいたのに調べていないのか。

(菅総理) 私も、かなり多くの個人ないし団体から、あまり大きな額はもらっていないと認識しているが、かなりの団体あるいは個人からいただいているので、調べて報告する。

JR総連からの献金問題に関しては、枝野官房長官が2月1日の予算委員会において「『李下に冠を正さず』ということもあり、献金等のお申し出があってもお断りさせていただこうと思う」と明言したこともあり、大きな波紋を呼んでいる。今後も、国会において、JR総連への革マル派浸透問題に対する追及が続くのは必至である。

なお、2月1日の予算委員会で、柴山議員が「昨年夏の参議院選挙で当選した田城郁議員は、JR総連の政策調査部長であり、JR東労組の委員長や会長を歴任した、革マル派創設者の一人である松崎明氏の側近であった。私は労働組合の健全な活動を否定するつもりは毛頭ないが、社会的に様々な問題が指摘される過激な労働組合については、断固として、政治や行政からの遮断を図ると思わないか」と質問したのに対し、菅総理は「社会的に問題が極めてある団体との関係というのは、当然ながら、そこは気をつけなければならないと思っています」と答弁した。

JR総連への革マル派浸透問題は、いまや国家をあげて解決しなければならない大問題だ！JR東日本、北海道、貨物会社は今こそ労政転換の英断を下すべきである！